

CIPFAJ ジャーナル 第7号 執筆要綱

- 『CIPFA Japan ジャーナル』に掲載予定の原稿（依頼原稿・査読原稿等すべての原稿）は、編集委員会への提出にあたって、下記の点を確認するものとする。
- 「査読論文」の場合、日本語原稿で文字数 15,000 字（「実務ノート」の場合は 15,000 字）、英語原稿で単語数 7,500 語を超える査読原稿は原則として受領せず、査読の対象としない。「論文」の場合は原則として、日本語原稿で文字数 20,000 字、英語原稿で単語数 10,000 語を上限とする。なお、この文字数には図表等の分量を含むものとする。文字数と単語数の判定は編集長が行う。
- 「実務ノート」は執筆者が直接に関与した実務事例を対象とする。ただし、掲載時には名称等が特定されないように、具体的な名称を伏すことができる。
- 複雑な図の作成は認めない。表形式のものごとく簡単な図のみの掲載とする。
- 先行研究に筆者一部加筆というパターンの図の掲載は不可とする。図の掲載はオリジナルな図表に限定する。また、1 査読論文当たりの「図」は、原則として表と合わせて2つ以内とする。
- 原稿は、論題、氏名（「査読原稿」「実務ノート」の提出に際しては氏名を記載せず空欄とする）、要旨、本文、注（脚注は不可、後注のみ可。ワード等の脚注機能等の使用は禁止する）、参考文献、肩書の順序でまとめること。
- I 1（1）といった見出しをはじめ、原稿の書式・整形はこれまで創刊された CIPFAJ ジャーナルの書式・整形を遵守すること。
- 本文中のワードの注記機能やタブ機能を使用した原稿は受領しない。
- 参考文献には教科書の類を掲載しないこと。参考文献はあくまでも当該論文執筆に不可欠で、注の対象ではないが、当該論文執筆で重用したものに限定して掲載するものとする。
- 最終提出のファイルは本文のワードとPDF、すべての図や表のワードもしくはエクセルもしくはPPTのファイルとする。ただし、簡単な「表」については、本文中に記載の原稿で最終原稿とすることができる。
- 提出のファイルのファイル名は下記のとおりとする。
 - （山田太郎）CIPFAJJ No07 本文
 - （山田太郎）CIPFAJJ No07 図表1
- ファイルで提出された図表の原稿本文中の挿入位置については、下記のとおりとする。
 -
 -
 - 図表1 挿入 ← 本文中の挿入位置にこの文言を記載する
 -
 -
- 本要綱に定める書式（脚注、図の形式や数を含む）に合致しない原稿は、受領・査読を行わない。また、原稿として受け付けない。
- 誤字や脱字が多くみられる原稿は、査読前の段階で却下とする。

最終改訂：2021年10月20日